令和４年度　宮崎県立高鍋高等学校　学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針（スクールミッション）	生徒が未来を切り拓き、よりよく生きていくために学校が果たすべき役割とは「生徒が明るく主体的に活躍できる場と、安心安全の学びの場を機能させること」である。たとえ失敗してもそれを乗り越え、与えられたところで誠実に、まじめにこれからの時代を生き抜く人間力のある生徒諸君の道標となるよう、以下の教育目標を設定し、本校の第２世紀の始まりにふさわしい、「誇り高き　高鍋プライド」を持ちあわせた生徒の育成に邁進する。
本年度の重点目標	1　確かな学力の向上と進路実現　「自学学習、基礎基本の定着やICT教育活用」「生徒自ら探求し自己肯定感を育む双方向の授業/面談」「キャリア教育の推進と高みに挑戦する生徒の育成」 2　豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立　「規則正しい生活習慣の確立」「人権感覚・命を大切にする生徒の育成」「師弟同行による環境美化・整備」「自己有用感・自己肯定感を育む教育的仕掛け」 3　地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり　「地域の外部機関、小中学校との連携、積極的な広報活動」「地域教育の拠点校としての役割推進」「PTA活動・同窓会組織との協働的活動の進化」 4　自主的自律的自己の確立と文武両道の推進　「自ら求め学び、諸活動に積極的に取組む校風を醸成」「文武両道の推進」 5　教職員の資質向上　「総合的な教科指導力の向上」「『高鍋メソッド』の確立」「教職員のチーム力向上」「教育相談・生徒指導・進路指導リテラシー相互に高めあう」

評価のポイント

・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。

・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。

・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。

評価段階

４：期待以上　３：ほぼ期待通り　２：やや期待を下回る　１：改善を要する

	学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標（手段・ゴールイメージ）	具体的な対策	年間反省（自己評価）評価	成果及び改善策	学校関係者評価および意見 評	コメント・ご意見
教務部	1　確かな学力の向上と進路実現	(1) 主体的・協働的な学習に取り組み、深い学びを実現できる生徒の育成 (2) 3学科の特徴を示すカリキュラムの作成と効果的な運用を目指す。	(1) ①日々の授業・行事の実施が円滑に進むための工夫 ②「オープンスクール」参加生徒数の増加 (2) ①特色あるカリキュラムの作成	(1) ①教育魅力化広報部と連携し、研修等を通してICTの有効活用を図る。 ②教科会の充実を図り、教科内の授業の確立を目指す。 ③校内連絡などの効率化・迅速化を図り、生徒の計画的な活動を促す。 (2) ①3学科とLA・CIの特色を生かしたカリキュラムについて、教科代表者会で検討し、効果的な運用を確立する。	3.0	○ミライムや職員連絡票を活用し、早めの情報提供に努めた。またミライムの情報を充実させ、ペーパーレス化にも努めた。 ○1年生の観点別評価に関しては、教科独自の方法を尊重しつつも、教務部としてのサンプルを提供した。学年末の評価に向けて、準備を整えることができた。 ●観点別評価の導入により、定期考査等について検討しなければならない課題が見えてきた。次年度以降も継続して検討して行く必要がある。 ●学科の特色を生かしたカリキュラムの検討については次年度も教科代表者会で継続していく。 ●校務支援関係やチャイム設定の情報共有を図る。	2.9	・外部の者にわかりにくい言葉は説明をつけていただきたい。 ・「特徴」「特色」について、鍋高ならではのものが、外部にももっと伝わるといいと思います。「○○なら高鍋高校！」「高鍋に行ったら○○ができる！」的な。
	3　地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	(1) 中高連携、授業公開等の充実を図りながら、地域に信頼される学校作りに努める。	(1) ①「オープンスクール」参加生徒数の増加 ②「授業公開」の充実	(1) ①教育魅力化広報部やKGCと連携を図りながら、オープンスクール参加者・本校志願者の増加を目指すとともに、円滑な運営の態勢を整える。 ②保護者や地域の方へ積極的な情報発信に努める。	2.8	○中学校・塾との意見交換会では、受付等で協力することができた。 ●オープンスクールに関しては、教育魅力化広報部に企画・運営が移ったことにより、関わるところが少なかった。次年度は協力態勢を整えていきたい。	3.0	・オープンスクールの時だけでなく、いつでも学校見学に行けると嬉しいが、現状は厳しいところだろう。
	5　教職員の資質向上	(1) BUタイムなど学力向上につながる取り組みと校内授業研究を充実させることで、生徒の学力向上と教師の授業力向上を図る。	(1) ①BUタイムなど、学力向上につながる取り組みを行う。 ②校内授業研究の充実。	(1) ①BUタイムの再定義・再検討。 ②教科横断的な取り組みの研究。 ③生徒の学習習慣、将来につながる学習スタイルの確立と校内における授業の在り方について研修を行う。	3.0	○BUタイムについて、教務部として十分検討し、再定義を行った。さらによりよいものにしていくべく、内容や実施時期についても現在検討中である。 ○校内授業研究に関しては、担当の先生や関係の先生方のおかげで充実した研究会を実施できた。教科横断的な取り組みについても実施することができた。 ●研修した内容をいかに校務に反映させるとともに生徒へ還元していくか、実際の運用についても検討し、生徒の学習習慣や学力の向上に努めていく必要がある。	3.4	・先生方で十分できていると思います。 ・高鍋町教育委員会主催の中学3年生合同学習会に積極的に協力していただいて、心から感謝しております。 ・生徒の自主性、主体性に期待したい。
生活環境支援部	2　豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	(1) 基本的生活習慣の確立 （周囲の人たちに信頼される生徒の育成） (2) 生徒の社会性の育成 （自分や周囲の人たちの安心・安全を尊重する生徒の育成） (3) 環境美化・緑化意識の啓発 （集中・機敏・奉仕）	(1) ①元気な挨拶ができ、端正な容儀を保てる生徒の育成 ②時間を大切にできる生徒の育成 ③法令や校則を遵守し、モラルやマナーを大切にする生徒の育成 (2) ①自分や周囲の人達の安心・安全を尊重する生徒の育成 ②情報機器や各種の情報に適切に関われる生徒の育成 ③主権者教育の充実 ④地域に貢献できる生徒の育成 ⑤人権教育の推進 (3) ①師弟動向による「気づく心」の育成 ②掃除2分前行動の徹底 ③生徒の美化・緑化意識を高揚し学ぶ環境を共に創っていく心を育てる	(1) ①全職員のよる常時指導の徹底。朝の正姿の徹底 ②遅刻指導（学年連携）、2分前着席（教科担任連携） ③関係機関や地域との連携。講話やHR活動を通しての心の教育や規範意識を高めるための教育の充実 (2) ①交通マナーの向上を図る指導を充実させる。自転車施錠の徹底を図る。教室の施錠や貴重品管理の徹底を図る。 ②携帯電話やスマートフォンの適正な利用や情報モラルの向上に対する指導につとめる ③地域ボランティアに積極的に参加する (3) ①共に清掃に取り組むことで師弟でのコミュニケーションを図り気づく心を育てる機会とする ②生徒による花壇コンクール実施 ③ゴミ分別の指導を徹底する。	3.0	○学友団のボランティア活動に向けて、企画・準備ができた。 △容儀指導は4月の1回のみであるが、全体的には良好。ただ何人かは勝手な解釈をしておかしな髪型にするものが存在するのが残念。継続した常時指導を行う。 ○（人権）LHRを通して、1年間予定通り実施することができた。 △清掃活動については監督に先生がたの協力もあって良好。ただ15分間生徒と一生懸命取り組む先生がいる一方でそうでない先生もいたので率先垂範の意識を高めていきたい。また、伝統の駆け足で掃除場所へ移動することも伝えていきたい。 ○人権学習について、向き合ってしっかり学習することができた。 ●自転車の2重ロックについては、モデル校に指定されているが、守れない生徒への指導が徹底されていない。交通委員から働きかけていきたい。 ●問題行動が多数発生した。いろいろな理由があるが生徒への声かけ、学校の落ち着かせ等早めの対応をしていきたい。 △補食や容儀面も含めてマナー面をどう徹底するか課題。 ●交通マナーについて外部から指摘をもらった。できる限り全校生徒へ伝わるようにしていきたい。 ○PTA奉仕作業が久しぶりに開催され、学校が非常にきれいになった。関係者の皆様ありがとうございます。今後毎日の清掃等でどう維持・向上させていくかが課題。 ○久しぶりに花壇コンクールを開催することができた。学校が華やかになり、生徒の心が豊かになっていると思います。	3.0	・交通マナー容儀指導等改善できにくい部分もある。まずは家庭から…を実践してみます。 ・学校周辺が夜暗いと感じます。バス停近くなど、照明が置けないでしょうか？県や町管理だとは思いますが。 ・そもそも校則が時代に合致しているのか、必要性などを学校側と生徒が共有することが重要ではないだろうか。 ・生徒にルールを押し付けるのではなく、生徒が自ら考えて行動するような仕組みづくりができると良いと思います。 ・百周年式典等での生徒の様子に落ち着きを感じた。 ・自宅前で帰宅中の高鍋高校生がよく挨拶をしてくれる。
	3　地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	(1) 防災管理と施設・施設管理の充実 (2) コロナ感染症対策	(1) ①安全点検の実施による施設設備の充実を図る ②全教育活動での防災教育の推進③危機管理体制を充実する (2) ①コロナ禍による生徒へ注意喚起②コロナ感染者数のデータ分析	(1) ①毎学期に安全点検を行い不備箇所の修理改善を行う ②ひとりひとりが意識して取り組む防災教育を各教科で行う ③学校被災時の連絡を確認する ④学校内の非常用品の常設検討⑤危機管理マニュアルの確認 (2) ①本校における危機管理マニュアルを作成し、本校の感染状況の実態に応じたコロナ対応を確立する	3.0	○防災訓練は工事で教室が変わったこともあったが、いつもとは違う形式（予告なし訓練）で行うことができた。今後も教室移動等があるので改めて避難経路を確認させたい。 ●コロナ関係については全体的な意識の低下や油断が見られる。インフルエンザも含めて感染症防止の意識の徹底を図っていきたい。また、コロナ感染症が5類になった場合の対応も準備していきたい。 ○工事や台風の影響で欠陥場所等が数多く見られたが事務と協力して迅速に対応出来た。学校全体の安全の意識を高めていきたい。	3.0	・工事等も完了していくので、今後に期待したい。 ・実際学校にいる時間帯に災害が起こった場合、大人は仕事に行っているので、生徒たちが自ら考えて行動しなければなりません。避難の後に何をすべきかについて、生徒たちに考えさせるような取り組みを行ってはどうでしょうか？
	4　自主的自律的自己の確立と文武両道の推進	(1) 生徒の主体性の育成 （自ら目標を定め、課題を見いだし、挑戦し続ける生徒の育成） (2) 部活動の充実と学習との両立 （部活動の活性化に向けた支援態勢を充実させる）	(1) ①委員会活動、各種行事の充実を図る ②LHR活動の充実を図る③学友団活動の充実を図る (2) ①部活動の活性化と実績の向上に向けた支援及び加入率の向上を図る ②けじめのある部活動生の推進 ③勉学との両立に向けて真摯に努力する生徒の育成	(1) ①生徒会執行部の活動による支援、定例生徒委員会や各種行事における実行委員会の活動に対する支援 ②関係部や学年と連携して効果的な計画立てを行うとともに活動の充実を図る ③団長を中心に地域貢献に向けた活動を充実させる (2) ①新入生の加入に向けて配慮する。活動内容や大会・試合日程・結果等を校内外に宣伝し、応援支援体制を向上させる ②活動時間に対する意識の向上を図り活動環境の美化に努めさせる ③部顧問、学級担任、教科担任の連携を密にして、宅習時間の確保と授業や課題等に取り組む姿勢を向上させる	3.0	○100周年の年に数多くの部活動等の活躍で学校が活性化した。△勉強と部活動の両立に対して一層の意識付けを行いたい。 ○ボランティア活動の施策を立ち上げることができた。呼びかけに対する生徒の反応もよく、今後の実績が期待される。 ○興譲館交流や壮行式などで応援団を出す場面が作れた。 ○鳴祭も雨の影響もあったが臨機応変にしっかり対応することができた。 ○とにかく1年間、数多い行事に対して関係職員・生徒・部活動生・生徒会等々が協力して1つ1つ成功したことは本当に良かったです。ありがとうございました。	3.5	・行事等が徐々にできるので良かったと思います。 ・野球部の活躍に久しぶりに町全体がワクワクしているように感じました。ぜひ夏の大会も頑張ってほしいです。

	学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標（手段・ゴールイメージ）	具体的な対策	年間反省（自己評価）		学校関係者評価および意見	
					評価	成果及び改善策	評	コメント・ご意見
教育魅力化・広報部	1 確かな学力の向上と進路実現	（1）情報化社会を生き抜くための技術やアイデアを学ぶ環境を整備し、学校全体の情報活用能力の向上を図る。	（1） ①ICT推進委員会の充実 ②リモート環境の整備と技術の波及 ②BYAD、GoogleClassroom等の研修企画 ③アカウント管理	（1） ①ICT推進委員会を中心として技術の波及を目指す ②BYAD、GoogleClassroom等の研修企画を行う ③生徒のアカウント管理を行う	2.5	○関係部署と連携を図り授業研究でICT研修を導入したことや推進委員の先生方を中心に授業公開を行うなど少しずつ波及体制が構築できてきた ○ICT研修を経て、GCを活用した授業を行う先生方が増えてきた ●zoomでの行事等は、まだ個人の力量に頼っている ●BYAD整備については組織化できていない ●学びの保証について学校全体で徹底して整備を進める必要がある。できる人任せの現状を変えないといけない ●ICTを利用した授業公開のスタートが遅く、1年生の生徒の端末持ち込みに間に合わなかった ●リモートの環境は整ったが、配信アカウントを担任個人アカウントに頼った点は、リスクが否めない。配信専用のクラスアカウントが必要と思われる。	2.9	・コロナ等の感染症は今後もまた流行る可能性があるため、自宅学習やZoom等重要になってくると思われる。 ・小中学校におけるICT化の現状を共有できると良いのではないかと思いました。
	3 地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	（1）地域や児湯郡の中学校、KGC（児湯学友団コンソーシアム）との連携を通して、協働的な学びの場を創出し高鍋高校の魅力として発信する。 （2）広報活動全般を通して、地域・保護者等の本校に対する信頼感と生徒の自己肯定感を高める。	（1）①中学校説明会への積極的参加 ②塾等への訪問 ③出前授業の企画 ④KGCとの連携 （2）①パンフレットの作成 ②高鍋高校通信の発行 ③HPの円滑な更新 ④インスタグラムの運用 ⑤オープンスクールの企画運営	（1） ①中学校説明会を新しい形で実施する ②塾等訪問を実施する ③授業の出前メニューを作成して出前授業を企画する ④KGCと連携して高鍋高校が人材バンク的な役割を担う （2） ①パンフレット・ポスターを作成し、戦略的に配付する ②高鍋高校通信を年9回程度発行し高鍋高校をPRする ③HPの円滑な更新を図り新鮮な情報を提供する ④SNSを効果的に利用し、より鮮度の高い情報を発信する ⑤教務と連携してOSの全体会の企画を行う	3.0	○中学校説明会を新しい形で実施した。多くの先生方が参加し、魅力を発信することができた。 ○児湯9中学校に出身中学校の生徒を同行した ●出前授業は出足が遅くなっているが、実施する段階まできている ○KGCとの連携を図ってボランティア等も各町教育委員会から募集がきている。中学校と高校の接続が円滑に進められている。 ○●パンフレット・ポスターを作成した。来年度のパンフ、ポスターは、今年度から準備し、4月上旬に業者搬入が完了するよう進めたい。カラフルな表紙で、新制服などをアピールすることができた。 ○高鍋高校通信も計画通り発行している ○HPの円滑な更新が行われている ○OSの企画運営も何とか頑張っている ○全体的に新たな取り組みに挑戦し魅力化に繋がる1歩になっていると思う ●学校全体での育成指標や学校の魅力化のために何をしていくべきか、道筋を立てる必要性を感じる	3.5	・中学生への説明、高校のアピールを強化することにより高鍋高校の入学率Upにつながると思う。宮崎県内広い地域へのアピールも必要である。 ・公式、探究、コンソーシアムのインスタグラムのフォロワー数がもっと増えてほしいです。 ・発信方法の工夫もあってよいのではないか。ターゲット層を考慮してSNS等工夫しては？ ・インスタをいつもチェックしています。フォロワーをもっとふやして下さい。 ・オープンスクール時に高校生に声をかけてもらったり、部活のところで直に話をしたりしたのが印象が良かった、と中学生の声を聞いたので、中学生との交流は大切だと感じました。
進路支援部	1 確かな学力の向上と進路実現	（1）進路実現に必要な学力の向上をはかる。 （2）専門学校、就職、公務員など多様な進路希望者へのサポート体制を充実させる。	（1）基礎学力の定着と向上 ①授業や課外の充実 ②個別添削指導の導入 ③学力検討会や志望校検討会の実施と活性化 （1）（2）自学学習の充実と自己管理能力の育成 ①生活の記録の有効活用 ②面談指導の充実 ③多様な進路先への対応	（1）進路希望に応じた課外や講座の開講 ①進学課外、公務員・就職課外、検定課外の実施 ②夕課外における講座制の導入 ③小論文指導の充実 （2）面談指導の充実と情報の共有 ①BUタイム等を活用しての定期的な面談の実施 ②就職・公務員説明会、インターンシップ等の実施	2.7	○大学進学、公務員、検定など目的に応じた課外を計画的に実施することができた。また、今後の課外のあり方についての議論を進め、方向性を決めていくことができた。次年度に向けて、進路実現のための学力保障をどうしていくかが課題である。 ●生徒の進路希望が多様化してきている中、進路希望別や学科・コース別など、学力検討会のあり方を検討していく必要がある。 ○BUタイムを活用して、面談や3年生の受験指導を充実させることができた。 △生徒理解や生徒の自己管理能力を育てる手立てとして、生活の記録を活用することができた。今後、活動実績の記録も含め、タブレットを活用した指導も検討していきたい。 ●ここ数年、初めから指定校推薦や専門学校を志望するなど進路選択の幅が狭い生徒が増えてきている傾向がある。下級学年からの進路指導の充実を図る必要がある。	3.1	・朝課外、夕課外の実施により学力UPにはつながるものの、授業中の集中力の低下にもつながる可能性があるのではないかと考えるので、朝課外を中止し、放課後の活用UPは効率が良いと思う。 ・高鍋高校OGである米国イェール大学医学部教授の岩切素子先生のオンラインでの講演会を企画されてはどうでしょうか？（高鍋町役場のOGでもあります。篠田校長先生の1学年下です） ・いろいろな選択肢があることを伝えてほしい。 ・校外での学習というが、見聞を広げてほしい。 ・授業以外での個々人への指導、対応は時間的に難しいと思うが、朝課外がなくなる中で学力保障という点で特色ある取り組みを期待しているところです。
	4 自主的自律的自己の確立と文武両道の推進	（1）校内外やオンラインでの講座、体験活動、オープンキャンパスへの参加を促すことで、進路意識の高揚と早期の目標設定につなげる。	（1）進路関係行事の充実 ①学年会、担任との連携と情報の提供 ②LHR進路の時間の活用 ③総合的な探究の時間の充実 ④進路関係行事の企画 （1）進路関係行事の充実 ①学年会、担任との連携と情報の提供 ②LHR進路の時間の活用 ③総合的な探究の時間の充実 ④進路関係行事の企画	（1）進路実現につながる活動記録の蓄積 ①オープンキャンパスへの積極的参加 ②東京大学金曜講座の実施 ③検定、ボランティア活動、校外での講座等への積極的参加 ④進路講演会の実施	2.8	△対外模試については各学年で計画的に実施することができたが、学校行事との関係で、実施日について検討が必要なところがあった。学年所属の進路スタッフが少ないため、負担が一部の先生に偏ってしまっているところがあった。 ○各学年と連携し、進路情報の提供や共有を適宜おこなうことができた。 ○進路相談会、オープンキャンパス、ひむか人財育成セミナーなど、学年会や担任団の後押しもあって、多くの生徒が意欲的に参加することができた。 △金曜講座は学年問わず多くの生徒が受講し、生徒たちが高度な研究に触れる良い機会となった。一方で、時間外での実施、資料の準備など、担当する職員の負担が大きかった。 ●各種講座や進路関係の行事に参加しただけで終ってしまう生徒が多いため、生徒の進路選択や進路実現のための実績にどうつなげていけるかが課題である。 ●総探は各学年で計画的に実施することができたが、計画を立てる担当者の負担が非常に大きい。現1年生より教科としての扱いになったこともあるため、独立した部署、委員会等を立ち上げて実施していくことが望ましいのではないか。 ●計画的に英検を受検・取得させることで、生徒の進路選択の幅や可能性を広げていくことが必要。 （英語科、部活動との連携、共通理解をはかる）	3.0	・OCの参加により進学への道が明確になった。一方で、学校行事　部活動行事が重なり、子どもに不快感を与えてしまうこともあり、親も考えさせられることが多かった。 ・講座などは積極的に生徒に呼びかけ、地域との広がりをもってほしい。 ・卒業生を招いてのキャリア講演会などはされているのでしょうか？
	5 教職員の資質向上	（1）入試問題研究の充実と組織的な指導をおこなうことで大学・短大合格者の増加を目指す。	（1）組織的な進路支援体制づくり ①入試等に関する最新の情報の入手 ②校内実力テストの実施 ③小論文・面接指導の充実	（1）入試・公務員試験問題研究の活性化 ①ミライム、教科代表者会等での情報の提供・共有 ②実力テスト作成による問題作成能力の向上 ③小論文・面接指導の組織化とOJTによる指導力の向上	3.0	○教科代表者会や教務と連携しながら、進路情報の共有や次年度以降の課外のあり方ついての議論を進めていくことができた。 ○3年生の面接・小論文指導は全職員の協力のもとで組織的に取り組むことができた。BUタイムの活用など、先生方が指導できる時間の確保が課題。 △下級学年の進路意識を高めるための手立てとして、卒業生や推薦入試、公務員試験に合格した先輩の声を直接聞ける機会を増やしたい。 ●校内実力テストは、実施時期、実施する意義など見直しの必要がある。	3.2	・自分に合った先生からの指導により、実力Upにつながると思う。 ・実力テストの実施は苦手分野の理解にとても参考になった。
保健相談部	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	（1）生徒が主役。心と体の調和のとれた健全な生徒の育成をめざす。 （2）頻繁に声をかけ、話を聞き、よく見て、褒めて、長所を伸ばし、自己有用感を与えて自己肯定感の向上につなげる。	（1） ①生徒理解をすすめ、生徒の立場で物事（世界）を見て教師の立場で教育に当たる。 ②自己有用感を与え自己肯定感を向上させ、自尊感情（セルフエスティーム）を高めて自信をもたせ、心と体の調和のとれた健全な生徒を育成する。	（1） ①まずは教師の論理ではなく、生徒の論理に立ち、生徒の心（気持ち）から学校生活や友人関係を理解するように努め、生徒の立場に立ってともに考えることができるようなカウンセリングマインドをもって面談にあたる。 ②まずは面談を行い、教育相談やカウンセラーの立場から話を聞き、よく見てタイムリーに褒めて自己有用感を与え、自己肯定感を高めるような対応を行う。	2.5	○相談室利用の生徒に対しては必ず面談を行い、よく話を聞き、自己有用観や肯定感、自尊感情を高めるような対応に努めた。 ○教育相談のパイプ役として不登校に陥った生徒、陥りそうな生徒への対応を担任を中心に学年主任、管理職と連携して実施できた。管理職の責任ある対応に助けられた。 ○ケース会を適宜実施できた。しかし時間が確保できず不十分さはぬぐえない。 ○1学期に保健相談部研修2回を復活し有意義な研修を実施することができた。 ●昨年度・今年度、相談室利用者が少ない、減少している。良いこと（不登校生徒の減少）でもあり、悪いこと（気軽に相談室利用）でもある。 ●相談部全員で教育相談の基本であるカウンセリングに当たれるようなシステムを構築しなければ、カウンセラー配置校でない学校は生徒への万全な対応が厳しい。	3.0	・不登校生等のカウンセリングの機会を今後も続けてもらい、減少に努めてもらいたい。 ・高鍋町内に住所のある生徒さんについては、協力できることは協力させていただきたいと思いますので、お気軽にご相談ください。（町雇用SSW1名配置しております） ・生徒に寄り添う対応を心掛けておられるのが素晴らしいと思う。
	3 地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	（1）校内外の組織と連携して速やかな対応を行う。	（1） ①計画性のある連携と情報交換 ②初動の速やかな報告・連絡・相談による対応	（1） ①高鍋カウンセリング（雇員カウンセラー）の活用や地域（高鍋町・新富町）家庭支援センターと連携を密にし速やかに対応する。 ②児童養護施設（友愛園・金鈴学園）との連携により、園生の自己肯定感や自尊感情の育成・向上を図る。	2.5	○児湯地域や市町村の専門機関との連携構築が確立されて軌道に乗ってきた。さらに児湯るびなす支援学校とのルートも復活してさらなる連携が構築できた。 ○児童養護施設（友愛園・金鈴学園）との連携もとても良い雰囲気で情報交換会ができている。 ○学校カウンセラーと学校側との連携が定着し、生徒の心の安定が図られている。 ●今年度は高鍋町家庭支援センター・みらいの面接（カウンセリング）対象者がいなくなった。情報交換会は実施しているので今後とも継続したい。また新富町のパブリカとの連携もさらに連携したい。	3.0	・高鍋高校生としての自覚を一人一人が持ち、行動していくような生活作りを続けていってほしい。 ・各機関との連携を引き続きお願いします。

	学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標（手段・ゴールイメージ）	具体的な対策	年間反省（自己評価）		学校関係者評価および意見	
					評価	成果及び改善策	評	コメント・ご意見
渉外図書・百周年部	1 確かな学力の向上と進路実現	(1)知の拠点として図書室の活用率UP （読書指導、委員会活動、環境整備、の充実）	(1) ①蔵書と広報活動の充実 ②1人あたりの年間貸出冊数平均10冊 ③委員会活動を通して、責任と主体性を育てる。 ④来館しやすい図書空間を作る。	(1) ①生徒や職員から希望図書を出してもらう。 ②朝の読書、ビブリオバトルを通して読書への興味を深めさせる。 ③図書委員会で定期的に活動状況を確認する。 ④季節に合わせて閲覧室や特設コーナーをリニューアルする。	2.9	○生徒（図書委員）の薦める朝読用の本や新書を、ライブラリー通信を通して発信することができた。昨年に比べ新書の貸出し冊数が増えた。読書の質を高めることにつながった。 ○読書旬間の企画など、新たな形で充実していた。 ○図書委員による注目記事と関連本コーナーを作成できた。 ○閲覧室の本の配置や、特設コーナーなど来館して楽しい空間づくりができていた。 ○宮日新聞の記事をリアルタイムに発信し、「青春謳歌」のイメージ作りに努めた。 ●朝読の本への集中をさせる指導の徹底 ●ビブリオバトル県大会と本校予選の日程調整が必要	3.2	・教室や職員室廊下などに広報誌を置くことで、多くの生徒に理解され効果が上がるのではないか。
	3 地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	(1)PTA行事や理事会、各種委員会を活性化させ、生徒支援の体制を確立する。 (2)本校が未来に発展するために、百周年事業の企画立案と連絡調整を組織的に行う。	(1) ①PTA総会および学年PTAへの保護者の参加促進 ②学校行事におけるPTAとのスムーズな連携 ③PTA行事の活性化 (2) ①百周年に向けての企画・立案 ②校内と同窓会との意見等の吸い上げと連絡調整	(1) ①PTA行事の案内を早期に行い保護者の参加を呼びかける。 ②コロナ渦におけるPTA行事のあり方を検討する。 ③PTA理事会を通して組織的かつ計画的な企画運営を行う。 (2) ①百周年各担当者・部署会議で組織的に準備を行う。 ②百周年実行委員会で、同窓会・学校・PTAの連携をはかる。	3.1	(1)PTA関係 ○PTA総会をコロナ感染対策を行いながら、無事に実施できた。 ●PTA総会のアンケートを部会で検討し、次年度に生かすⅰ)時間短縮ⅱ)リモート実施ⅲ)役員選考の事前アンケートをとるⅳ)冊子内容の精選・スリム化 ○PTA食物バザーや奉仕活動などをコロナ感染対策を行いながら、2年ぶりに実施できた。 ○学年PTAでは学級理事と連携をとって受付や駐車場業務を手伝って頂いた。 ○コロナ渦においても、昨年に引き続き母親委員会（寄せ植え講座）を16名の参加者で実施することができた。大変好評であり、次年度も企画していきたい。また、西都児湯地区の母親研修も8名参加で実施することができた。 ●PTA活動が学校主導で行われており、保護者負担の軽減にはなっているが、職員の「働きがい改革」の視点が必要である。次年度はP（保護者）主導で活動を盛り上げたい。 (2)百周年関係 ○百周年は様々な場面で、生徒とともに取り組み、事前指導に時間と労力がかかったが、それだけ良い取り組みができた。 ○百周年の式典および祝賀会は、急な対応や変更を強いられたが、滞りなく実施することができた。全職員のサポートに心から感謝したい。 ●役割分担がうまくいかず、効率的な準備ができていない部分があった。	3.4	・高鍋高校はがんばっていると思う。100周年を迎え、注目が集まる中、うまく活用できた。メディアに取り上げられることも多く、高鍋高校のPRになったと思う。 ・コロナ対策の下、今年は今まで以上の行事が実施できたので良かった。今後も活力ある学校、学級作りを継続してほしい。 ・百周年が開催できてよかったです。素晴らしかった。何も協力できなくて申し訳なかった。 ・百周年という大きな節目に立ち会えたことは本当にありがたいなと感じております。本当にお疲れさまでした。 ・PTA役員含め保護者の意識がどのようなものかわからないが、PTA活動は先生方の負担、労力をかけるところではないのではないか?PTAの積極的な活動を期待したい。
事務部	1 確かな学力の向上と進路実現	(1)生徒が主体的に学ぶ事業の実践	(1) ①学習活動に対して予算面からバックアップする。 ②教職員と情報交換をすることで、今現在不足していることが何かを把握する。	(1) ①年度初めに調査した、各教科・校務分掌からの要望に対して、予算状況を見ながら購入していく。 ②危険箇所等、随時予算要求し修繕を進める。	3.0	(1) ●想定していた以上の電気料の増額で予算をかなり圧迫している。補正予算が要求額の8割程度しかつかなかったため、これまで先送りされていた懸案事項に思い切って踏み込めない状況である。 ○予算要求が通り修繕を行った場所以外にも、老朽化が多く見られ全体的に手が入っていない箇所が多い。少しずつでも予算要求をし、改善していく必要がある。	3.0	・100周年を迎え、様々な問題点もあがってきたと思うので、改善につなげて頂きたい。 ・生徒のために、冷暖房を適切に使ってほしい。 ・高鍋高校の空調改修工事の設計を参考にさせていただき、本町の小中学校も個別空調に切り替えることとなりました。ありがとうございました。（電気代の高騰、本当に頭が痛いですね） ・学習意欲は環境に影響されるので早めの対応をお願いします。
	3 地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	(1)計画的・戦略的な広報活動の充実	(1) ①丁寧な窓口対応・電話応対に努める。 ②中学生に関心を持ってもらえるようなHPとなるよう、担当職員と話し合う。	(1) ①受付での検温、来校者の聞き取りを徹底する。 ②魅力化が取り組む広報活動等に予算的措置を行う。	3.0	(1) ○来校者の対応等、丁寧・的確に行えている。 ○魅力化による「高鍋高校通信」の発行や、来年度に向けての学校パンプレット等の作成においても予算的措置を行えている。	3.0	・親から子へ連絡等、早い対応で快く引き受けて下さっている。 ・高鍋高校通信を作成される場合、A3片面ではなく、A4両面とされた方が良いと思います。封筒も小さいもので十分だと思います。（折り曲げて）

令和４年度　宮崎県立高鍋高等学校　学校評価（自己評価および学校関係者評価）　学年/学科

学校経営方針（スクールミッション）	生徒が未来を切り拓き、よりよく生きていくために学校が果たすべき役割とは「生徒が明るく主体的に活躍できる場と、安心安全の学びの場を機能させること」である。たとえ失敗してもそれを乗り越え、与えられたところで誠実に、まじめにこれからの時代を生き抜く人間力のある生徒諸君の道標となるよう、以下の教育目標を設定し、本校の第２世紀の始まりにふさわしい、「誇り高き　高鍋プライド」を持ちあわせた生徒の育成に邁進する。
本年度の重点目標	1　確かな学力の向上と進路実現　「自学学習、基礎基本の定着やICT教育活用」「生徒自ら探求し自己肯定感を育む双方向の授業/面談」「キャリア教育の推進と高みに挑戦する生徒の育成」 2　豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立　「規則正しい生活習慣の確立」「人権感覚・命を大切にする生徒の育成」「師弟同行による環境美化・整備」「自己有用感・自己肯定感を育む教育的仕掛け」 3　地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり　「地域の外部機関、小中学校との連携、積極的な広報活動」「地域教育の拠点校としての役割推進」「PTA活動・同窓会組織との協働的活動の進化」 4　自主的自律的自己の確立と文武両道の推進　「自ら求め学び、諸活動に積極的に取組む校風を醸成」「文武両道の推進」 5　教職員の資質向上　「総合的な教科指導力の向上」「『高鍋メソッド』の確立」「教職員のチーム力向上」「教育相談・生徒指導・進路指導リテラシー相互に高めあう」

評価のポイント

・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。

・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。

・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。

評価段階

４：期待以上　３：ほぼ期待通り　２：やや期待を下回る　１：改善を要する

	学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標（手段・ゴールイメージ）	具体的な対策	年間反省（自己評価）評価	年間反省（自己評価）成果及び改善策（○実施済み、成果　●課題　）	学校関係者評価および意見 評価	学校関係者評価および意見 コメント・ご意見
第１学年	1 確かな学力の向上と進路実現	（1）生徒の可能性を最大限に伸ばし、進路実現を達成させるための基礎となる学力を身につけさせる。	（1） ①自己理解と進路理解の促進 ②自宅での学習習慣の定着 ③各種模試の活用 ④読書活動の充実	（1） ①新入生オリエンテーションの実施、明倫（エナジードの導入） ②改訂された生活の記録をフルに活用する ③スタディサポート及びスタディサプリ分析会の実施 ④朝読書の活用、図書館利用の促進	3.5	○今年度より導入したエナジードにより総合的な探究の時間におけるBYAD個人端末の活用が活性化した。進路に関する意識の促進にもつながった。 ○スタディサプリ模試の分析を行い、BUでの自学教材をを計画的に与えることで、基礎学力の向上や中学での学び残しの解消ができた。模試の成績にもその効果は確実に表れた。 ○スタディサポートの分析会で、中学までの学びの遅れや家庭での学習習慣の傾向を把握し、BUでの個人面談にうまく活用できた。生徒一人ひとりの進路目標設定が明確になった。 ○LAクラスを対象とした特別講演会を企画することで、自分の進路に対する考えを深め視野を広げることができた。 ○地域探究は計画的に取り組むことができ、最終的に未来新聞で成果発表を披露することができた。 ●エナジードは動画がフリーズするなどデータが重い資料の活用に問題があった。 ●BYAD端末が生徒の手元に届くのが7月以降で、それまではあらゆるデジタル教材を十分に生かすことができなかった	3.4	・模試の実施により客観的に自己評価ができ、自分の将来への見通しが立つと思う。また、苦手分野を理解することが成績Upにもつながると思う。
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	（1）基本的生活習慣の確立を図ると共に、自主性・積極性を養う。	（1） ①常時指導の徹底 ②遅刻、欠席、特別指導ゼロを目指す ③学習環境の整備	（1） ①定期的な二者面談と生徒への積極的な声掛けを行う ②遅刻カードシステムの導入、生環部、保健相談部との連携 ③学年集会の有効活用	2.5	○朝課外での7：25分着席完了を徹底指導することで、5分前行動や時間厳守の生活習慣を身につけることができた。 ○定期的な容儀指導が撤廃された分、容儀の常時指導を重視できた。また、学期始めの学年集会では生徒による主体的な服装・頭髪チェックを行うことで、容儀面が大きく乱れる生徒はいなかった。 ○改訂された生活の記録を活用し、日々の自宅学習時間や生活習慣を把握できた。グーグルクラスルームを用いた生活の記録のデジタル化も試行できた。 ○学年集会では生徒が自身の心構えや目標を発表し、生徒の主体性を向上させることができた。 ●清掃場所に遅れてきたり、時間いっぱい清掃活動に取り組んでいない生徒が少なからずいる。 ●朝課外に遅刻してくる者が固定化している。 ●流行拡大につながることはなかったが、昼食時の黙食が守られない時があった。	3.1	・親や友達に語ることのできない将来の不安や理想を2者面談で話すことができ、今後にもつながると思う。 ・小中学校もですが、黙食で学校生活が楽しいとは思えないです。学校独自のリールとか提案してもらえると良いなと思ってます。
	3 地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	（1）家庭との連絡を密にし、生徒・保護者・学校相互の信頼関係を築く。	（1） ①入学式、PTA総会での学級懇談会 ②三者面談や家庭訪問	（1） ①保護者が生徒の様子を把握できる丁寧な説明や資料の準備 ②マメール、GoogleClassroom等、ICTの有効活用 ③学級通信の充実	3.0	○学年PTAで保護者向けのインターネットやSNSの使用に関する講演を入れることができた。 ○学級単位でマメールによる連絡を行うことができた。 ○地域探究で児湯地区の課題や解決策を考える過程で、地域住民の方と積極的に関わることができた。 ○クラス懇親会への参加は多かった。多くの保護者が生徒の学習・学校生活に協力的であった。 ●各種検定にチャレンジする生徒が少なかった。受験料が高騰しているせいでもあるだろうが、資格取得の重要性を生徒だけでなく保護者にも訴えかける必要がある。 ●グーグルクラスルームでは保護者との双方向的な連絡が困難であった。来年度はクラッシーを導入することで、保護者とのより密な連携を図りたい。 ●紙媒体での学級通信は生徒が保護者に見せていないという問題があった。	3.2	・マメールの活用は、親子共に行事・イベントの共有ができ効率が良い。学校への返信も確実である。
	4 自主的自律的自己の確立と文武両道の推進	（1）学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組ませ、行動力と豊かな人間力を育てる。	（1） ①部活動加入率80%以上 ②学校行事への積極的参加 ③各種ボランティア活動への参加	（1） ①「文武両道」を目指し部顧問と連携する ②生徒主体の活動を増やす ③ボランティア活動への積極的な呼びかけ	3.0	○グーグルクラスルームを利用したポートフォリオを作成しながら、対外的な活動や校内外での様々な経験を積むことの意義を理解できた ○大量に投げ込まれるボランティアや講演会の案内をPDF化し、グーグルクラスルームを使って案内したことで、校外のボランティアや金曜講座に多くの生徒が参加した。 ●部活動加入率が74パーセントにとどまり目標値を達成できなかった。 ●両立が難しく退部する生徒がいた。部活動と学業を両立できる生活習慣の確立ができなかった。部活動の大切さを伝えていかなければならない。	3.1	・部活動で人間関係の育成や友人関係、学校生活における楽しみを育むことができる。ボランティアを通して社会とのつながりを学ぶことができ良いと思う。 ・部活動加入率は、県平均と比べてどのくらいの位置なのでしょうか？ ・部活動に加入することが果たして良いことなのか…生徒にもそれぞれの考え方があるのであれば、尊重すべきではないか？ ・部活動しながらの朝課外は親としても体力が・・・という時もありました。（弁当作り）朝課外の必要性を検討してほしいです。
第２学年	1 確かな学力の向上と進路実現	（1）生徒の可能性を最大限に伸ばし、進路実現を達成させるための基礎となる学力を身につけさせる。	（1） ① スタディ・ログの有効活用による、一人一人のニーズに応じた学力向上支援の実現 ② 進路意識を高めることによる学習意欲の高揚	（1） ① 生活の記録の活用による自宅学習の充実と自学力の向上、および生徒のニーズに応じた学習機会の提供 ② 探究活動の充実、オープンキャンパスへの参加促進、模擬試験へのチャレンジ等をとおした具体的進路目標の設定	2.7	○各クラスで面談等を通して、各生徒の大まかな目標設定を行うことで、新年度に向けての助走期間としての意識付けができた。各生徒が行動に移すことができるよう支援したい。 ○生活の記録のやりとりを通して意欲を喚起することができた。今後は、生徒による温度差を解消していきたい。 ○LA・CI・生文の各コースで探究活動（ポスターセッション・動画作成）を計画的に進めることができた。生徒たちにとって、成果発表などの機会を通し、達成感を味わい自信をつける良い機会になった。 ○明倫の時間を活用した、リスニングや小論文トレーニングなど、学年全体で学力向上に取り組めた。 ●生活の記録の回収率は良いが、記録によって学習への意識の向上には繋がらなかった。 ●生活の記録の活用は、担任の先生方は一生懸命指導されているのだが、生徒自身の意識が低く形骸化している感じを受ける。 ●進路実現に向けて、具体的目標の設定と学力向上のサポートを充実させる。 ●上位層を伸ばす対策、下位層を引き上げる対策が不十分だった。 ●課外廃止に伴い、BUの活用などによる「学力保障」のための具体的な方向性を早期に出す必要がある。	2.9	・個人個人によって指導のばらつきがあるようなので、平等な指導を受けられるよう教員の配置や環境作りが必要だと思う。 ・朝課外があることで、授業がうまく取り組めない態度（眠っていて授業を聞いていないなど）の生徒もいると聞く。来年度から朝課外廃止は良いと思う。
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	（1）基本的生活習慣の確立を図ると共に、自主性・積極性を養う。	（1） ①「規範意識」「人権意識」の高揚および「環境整備」 ②「発達支持的生徒指導」へのパラダイムシフト	（1） ①生活環境支援部・教育相談部との連携強化、および職員間での密な情報交換による「寄り添う指導」の実現 ② 常時指導や二者面談の充実等による、個性の発見、可能性の伸長、社会的資質・能力の発達に対する働きかけの徹底	3.2	○常時指導を心がけ、きめ細やかな指導に力を入れた。面談を定期的に行い、生徒の進路希望や生活状況について状況を理解し適切な対応ができた。 ○生活の記録などでの「気づき」による声かけや、修学旅行前の悩み相談などで、人間関係等の悩みを早期発見し対処することができた。 ○生徒指導に関して、学年全体で一貫性を持って是是非非の指導ができた。生徒も納得し、しっかり指導に乗ってくれているのがありがたい。 ○素直で思いやりのある生徒が多いので、学校生活全般を通して、さらに人間力を高めるサポートを行っていきたい。 ○生徒に関する情報交換等の職員間（学年や養教）での連携がスムーズだったため、長欠生徒や成績不振の生徒への声かけを、タイミング良く行うことが出来た。 ○修学旅行を経て規範意識の向上が見られた。 ●生徒、教師ともに時間に追われ、ゆっくり話をする時間を確保できない。 ●生徒一人一人が、高鍋高校に対する帰属意識と高い満足度を持てる取り組みが必要である。 ●環境整備について常に指導していたが、生徒自ら意識的に行動するには至らなかった。	3.1	・生徒一人一人のそれぞれの対応はできていると思われるが、細かな部分で生徒へのケアが不十分ではないかと思う。 ・生徒が先生に質問しやすい環境であってほしいと願うが…なかなか大変だろうと思う。 ・「帰属意識と高い満足度を持てる取り組みが必要」という点に共感を覚えます。入学希望者増にもつながると感じます。

	学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標（手段・ゴールイメージ）	具体的な対策	年間反省（自己評価） 評価	成果及び改善策 （〇実施済み、成果　●課題　）	学校関係者評価および意見 評価	コメント・ご意見
第3学年	3 地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	（1）家庭との連絡を密にし、生徒・保護者・学校相互の信頼関係を築く。	（1） ①各種集会の充実（学年PTA・学習定着指導等） ②三者面談や家庭訪問の実施 ③学校からの情報発信の充実	（1） ① 各種集会や学級懇談会を通した教育目標の共有化 ② 三者面談、家庭訪問の実施による「安心・信頼」の提供 ③ 学級通信、マメールの活用等による家庭との連携強化	3.1	〇保護者との連携はしっかりとれており、誤解や不信感を与えない丁寧な対応ができた。 〇気になる生徒にはこまめに声をかけ、保護者との連携も図ることができた。 〇定期的な面談や学級通信、マメールによる情報提供などを行い、生徒・保護者との信頼関係を築くことができた。 〇明倫の成果発表や修学旅行などの学校内外での活動の記録を行い、学校を通じて積極的に発信することができた。 ●学校からのマメール連絡とクラスでのマメール連絡が時期的に重なる部分があった。 ●クラスのマメールや学級通信の回数が少なかった。保護者との面談の機会も少ないため、今後は保護者と繋がれるツールを持てるよう努力したい。 ●学校がSNSなどで発信している情報が、あまり保護者に知られていない。	3.1	・メール・プリント等を用いての情報発信、連絡事項等は十分にできているが、同じクラスの保護者間の連絡手段ができていない。 ・学校と保護者間の連携はとれていると思う。 ・ターゲットによって、発信方法を変えることも1つの策ではないか。 ・昨年に比べると学級担任からのメールが少ないようでした。テスト前など声掛けできることもあるので、クラス別でメールがあるといっしょに応援できるのかな?と思いました。
	4 自主的自律的自己の確立と文武両道の推進	（1）学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組ませ、行動力と豊かな人間力を育てる。	（1） ①部活動・学校行事・生徒会活動への積極的参加 ②ボランティア活動や校外活動への意欲的参加	（1） ①部顧問との連携による「文武両道」の推進 ②各種行事・活動などの情報提供や条件整備等、活動参加を支援する体制づくり	2.8	〇ボランティアや進路説明会への参加や資格取得について声かけを行うことが出来、生徒が意識的に動く様子が見られた。更に英検等の検定試験の受検を積極的に奨励できる雰囲気を作っていきたい。 〇部活動で2年生が中心となっているため、声かけや応援をすることでコミュニケーションがとれている。部活動の勢いを学習面や生活面に生かせるように、今後も引き続き細やかな指導を行っていきたい。 ●学校外での諸活動に積極的に参加する生徒が固定化され，それ以外の生徒との差が大きくなった。 ●部顧問との連携については、まだ十分とは言えない。ボランティア活動参加や資格取得の機会を増やすためには、「文武両道」の在り方について部顧問の理解を得、連携を深める必要がある。部活動を理由に参加・受験できないという生徒を出さない体制を確立したい。	2.8	・部活動、朝課外、自宅学習などで疲れ、ボランティアなどの社会的活動まで行き届かないのが現実にあると考える。 ・ボランティア活動への参加は良いと思う。（他学年、地域の方々とも触れ合ってよかった） ・「文武両道」は社会人になるためには大切なことです。個人差もあると思います。それぞれ意見も尊重して活動できると良いなぁと思います。
	1 確かな学力の向上と進路実現	（1）具体的な進路目標を設定し、それを達成するための学力と自学力の伸長を図る。	（1） ①全員の進路目標達成 ②国公立大学合格者数55名 ③公務員合格者数15名 ④就職合格率100% ⑤小論文指導・読書活動の充実	（1） ①「授業第一」の意識付けを徹底する ②生活の記録の活用と学習会等を実施する ③個別指導を実施する（成績上位層・下位層） ④模試における目標設定と対策、学力検討会を充実させる ⑤朝の10分間読書や総合的な探究の時間を活用する	2.7	△与えられた課題には真面目に取り組むことはできるものの、主体的に学習できているとまでは言い難い生徒が多いように感じる。 △自学力は身についてきたが、志望校のボーダーに届くほどの自宅学習が足りていない生徒が多いと感じた。 〇生活の記録を活用し、生徒の少しの変化に気づくことができ、進路相談やに役立てることができた。 △難関大希望生徒の添削指導は計画的にできた。人数が少なかったのが残念で、高い意識をもって学習する集団作りが必要であった。 ●国公立大学推薦受験が厳しい結果だった。原因を分析し、小論文対策や学力検討会の在り方、ポートフォリオの活用、資格取得など、改善していく必要があると感じた。 〇公務員に合格した生徒は1年次からの基礎学力が身についており、進路意識も高かった。 〇生文科の情報処理系検定では、3種目1級取得者数が昨年度を上回り、多くの生徒が成果を上げることができた。 〇朝の10分間読書は、学年が上がるごとに取り組みが良くなった。楽しんで読書している姿が多く見られるようになった。 △総合的な探究の時間を活用して個別の進路研究や自己分析をし、受験に役立てることができた。2	2.9	・推薦入試等が年末年始前でもあり、指導してくださる先生と生徒が自由に連絡ができるような手段・ネット環境の整備が必要ではないか。
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	（1）基本的生活習慣の確立と自主性・積極性の更なる向上を図る。	（1） ①遅刻、欠席、早退者の前年度比減 ②問題行動やトラブルの未然防止 ③学習環境の整備	（1） ①定期的な二者面談の実施 ②学年会、職員間での密な情報交換 ③師弟同行による清掃活動の徹底	2.9	●コロナに振り回された3年間であり、欠席が多かった。 ●進路の決まった生徒の指導の在り方が難しく、空席が目立った。 〇担任会の記録簿を学年全体で共有するなど、職員間の密な情報共有により、生徒への支援に活かすことができた。 〇清掃への取りかかりは良好で、落ち着いて学習する環境作りはできていた。	2.9	・クラスによっては進路が決まった子と、まさに受験に向けて勉強中の子が混在しており、クラスの雰囲気が乱れがちである。
	3 地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	（1）家庭との連絡を密にし、生徒・保護者・学校間の良好な協力体制を築く。	（1） ①学年PTAや三者面談の実施 ②学校からの情報発信	（1） ①三者面談、学級懇談会の充実を図る ②学級通信や学年通信、マメールを活用する	3.0	〇保護者と密に連絡を取り合い、進路実現や生活指導に役立てることができた。 ●学校からの情報が保護者まで届かないケースもあり、クラス単位でのマメール活用などの工夫が必要だった。	3.0	・三者面談や二者面談の定期的な実施で、生徒も勉強しやすい環境ができる。
	4 自主的自律的自己の確立と文武両道の推進	（1）最高学年としての自覚を持って、主体的に諸活動に取り組ませることで、豊かな人間力と学年としての強い絆を育てる。	（1） ①部活動への積極的参加 ②各種行事や生徒会活動への主体的な参加 ③ボランティア活動や校外活動への意欲的な参加	（1） ①「文武両道」を目指し部顧問との連携を図る ②学校行事への積極的参加を奨励する ③掲示板等を活用しての募集案内や、活動参加を支援する体制づくりに努める	2.9	〇部顧問との連携を図り、部活動では充実した3年間を過ごすことができた生徒は多いと思われる。 〇校外活動の情報提供をこまめに行い、積極的に参加する生徒が増えた。 〇学校行事や生徒会活動では、多くの生徒がリーダーシップを発揮して活躍し、これまでの成長を感じることができた。	3.2	・部活動を続けることで、社会とのつながりや学校生活以外での学びがあると思う。
生活文化科	1 確かな学力の向上と進路実現	（1）基礎学力の向上と専門科目における知識と技術の定着をはかる。	（1） ①基礎基本の定着を図り、検定合格率100%を目指す。 ②1年次からのきめ細かな一貫した進路指導を行い、進路決定率100%を目指す。	（1） ①難易度の高い上位級に対しては、放課後・すきま時間を有効に活用 ②生徒の実態に合った効果的な授業の改善 ③生徒とのコミュニケーションを密に取り、職員間で共有し、普段から相談に乗る体制をととのえ、学科全体で生徒の進路をバックアップ ④インターンシップを通し職業や就業への意識付け	3.8	〇放課後の指導も含めて生徒1人ひとりに丁寧な指導を心がけ、基礎基本の定着をはかり、上位級の資格取得につながる結果を残すことができた。（情報処理系5種目1級2名、4種目1級9名、3種目1級12名 ※3種目以上1級合計23名：取得率76.6%） 〇今年度「ビジネス実務マナー技能検定 文部科学大臣賞」受賞（合格率93.3%） 〇進路内定率100%（4年制大学7名、短期大学3名、専門学校12名、准看2名、就職6名） 〇結果から、1年次からのきめ細やかな指導は、3年次の結果につながると確信することができた。 △エアコン工事に伴い、被服室や保育室、情報室を十分に使用できない期間が長期にわたり、授業や資格取得に多大な影響が出た。ただ、これを機に視点を変え、工夫や思い切った変更などを試みることもできた。	3.8	・資格を取ることで自分への自信にもつながると思う。
	3 地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	（1）地域に信頼される、魅力ある学科を目指す。	（1） ①学校説明会・オープンスクール・HP等における積極的な学科PR ②地域との連携強化 ③中高連携の推進	（1） ①学科の魅力を機会あるごとに紹介 ②HPを随時更新し、地域や小中学校に向けて活発な取り組みを発信 ③外部講師招聘事業の内容充実と新たな取り組みを開拓 ④専門学科の特色を生かした、中高連携の取り組みの実施	4.0	〇夏のオープンスクールでは、新たな形で学科をPRし、中学生へ生文科の学びを印象づけることができた。秋のオープンスクールでは、体育館でファッションショーを行い、中学生に間近に見てもらうことができた。 〇魅力化広報部のお陰で、様々な場面で生文科の活動をPRすることができた。また、学科独自でもHPなどで学科活動をPRすることができた。 〇家庭クラブ活動から始まった活動をきっかけに、高鍋町役場と連携し、新たな「地域課題研究」に取り組み、地域との連携や研究活動を深化させることができた。 〇長年取り組んできた「お茶の魅力講習会」では、その実績が評価され、県で表彰された。 〇初の試みとして学設科目「生活文化」の学びを生かし、高鍋東中学校で生徒によるマナー出前授業が実現し、生徒にとって教える貴重な体験となった。	3.8	・今年度は表彰されることも多く、新聞等に記載されることも多かったため高鍋高校のアピールにもつながったと思う。 ・高鍋東中でのマナー出前授業、ありがとうございました。 ・出前授業はぜひ拡大化してほしい。 ・結果として表れているので素晴らしいと思います。 ・学科の特色が外部にも伝わってきた。
	4 自主的自律的自己の確立と文武両道の推進	（1） 生徒の自主性・積極性の育成に努める。	（1） ①学科全体で学校行事の成功に貢献 ②家庭に関する学科に誇りを持って積極的に活動する生徒の育成	（1） ①生徒の主体性や積極性を養う機会の設定 ②鳴海ヶ丘祭の更なる内容充実（バザー・ファッションショー等） ③計画的な学科集会の実施 ④検定合格や学校行事への参加、専門科目への意欲的な取り組み、対外的な発表会やコンテストの参加と上位入賞を目指す	3.8	〇創立100周年記念式典では、生徒の日頃の学びを生かし「受付・案内」や「制服お披露目」など、生徒が主体的に行い大活躍をすることができた。 〇様々な学科行事では、企画準備・運営・撤収に至るまで3年生の活躍を見ることが出来た。役割に責任と自信を持って動く姿は、1・2年生に多くの学びをもたらしたと感じる。 〇多種多様な生文科の行事は、学びの成果発揮の場となり、生徒達の成長につながっていると感じることが出来た。	3.8	・100周年事業は生徒たちにも大きな影響を受け、自主性やアピールをする一つの場となったのではないかと思う。
	5 教職員の資質向上	（1）社会変化に柔軟に対応でき社会に貢献できる生徒の育成をはかるため効果的な授業の研究等を行う。	（1） ①基本的生活習慣（挨拶・容儀・時間厳守等）の確立 ②学校行事や検定、専門科目への取り組みを通して自分らしい生き方を実現させる ③効果的な授業の研究と工夫	（1） ①日頃の挨拶や常識的な言動に関する常時指導 ②学校行事や学科独自の取り組みに積極的に参加させ、自己の役割を通してキャリア発達を実現 ③授業内容の精選と効果的な指導方法の研究と工夫	3.2	〇生文科の強みは、生徒の情報共有が職員間でしっかりできていることで、その体制により日頃の指導を迅速に行うことができた。今後も小さな気づきを大切にし、連携して生徒支援につなげたい。 △1年間を通して、1年生も挨拶などが少しずつ出来るようになったが、今後もマナー・礼儀・挨拶等について、学科全体で常時指導を継続していきたい。 △被服棟のエアコン工事の前倒しや延長により、授業計画や検定計画が例年通りにいかず、大幅な変更が多々あった。情報処理系検定以外は、工夫をして何とか検定を実施できた。 ●学科業務が大変多く、教材研究に納得のいく十分な時間を割くことができなかった。	3.3	・エアコンの適切な作動と、校舎内の内装等も今後修理していく必要があると思う。 ・学科業務とは?何が原因、要因なのか?軽減する方法、手段はないのか? ・先生方が働きやすい環境を作ることがマストである。他校の先生方が、鍋高に「来たい!」と思わせる体制づくり。そうすることによって生徒も増えるのではないか?

	学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標（手段・ゴールイメージ）	具体的な対策	年間反省（自己評価） 評価	成果及び改善策 （○実施済み、成果　●課題　）	学校関係者評価および意見 評価	コメント・ご意見
探究科学科	1 確かな学力の向上と進路実現	（1）高い志をもって学習に臨み、進路実現を目指して学習活動に励む生徒を育成する。 （2）多様な活動を展開しながら生徒の課題発見、解決能力を育てる。	（1） ①基礎学力とともにハイレベルな思考力・表現力の育成。 ②自学自習力の定着。 ③進路意識の涵養。 (2) ①探究型学習や探究活動の展開と充実。 ②充実した各種行事実施による探究心の醸成。 ③ICTの利活用による情報リテラシーの育成。	（1） ①日常的な授業の充実と考査や模試の活用。また学校設定科目「探究Ⅰ・Ⅱ」「ロジコミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」での外部機関との連携を通して思考力や表現力を育成する。 ②BUや休日の自学の充実を図る。また時機をみながら学習会を計画し実施する。 ③オープンキャンパスへの積極的な参加をうながす。 ④学年毎に教科担任会を実施する。 ⑤3校連携を充実させる。 (2) ①1年「探究Ⅰ」2年「探究Ⅱ」の充実と指導者同士のOJTを促す。 ②高大連携やアドバイザーとの連携などを上手く活用する。 ③探究活動を軸としたICT活用を促す。	2.9	○悩みながらも、何とか課題研究を形にすることができたことは、生徒の自信にもつながった。学科や指導を担当してくださった先生方に感謝したい。 ○「探究Ⅰ・Ⅱ」について、外部機関の協力をあおぎながら無事実施できた。校内においても多くの先生方の協力と理解のもと完了したことに感謝している。 ○「ロジコミⅢ」において、今年度も宮崎大学教育学部との連携により、小論文講座を実施できた。第2回は理系の生徒も交えて授業が出来たので、文理関係なく、受験に必要な論文の作法について共通理解を持てた。 ○3年ぶりに九州産業大学でのEnglishWinterCampを実施することができた。 ○1年生のFW演習Ⅰ・Ⅱについて、ポスター作成や発表会などを時機を逃さずに実施でき、最終形としてWinterCampでの英語プレゼンまでつながったことはよかった。今後は更なる質の向上を目指していきたい。 ○1年生においては、個人端末によりポスター作成やスライド作成を複数回重ねることができた。 ○今年度から探究学習アドバイザーとして中山さんにお願いしたことは大きな前進であった。 ○探究科学コース時期から継続してきた3校合同の行事も安定して実施できている。主任間の定例会議もOnlineで毎週実施し、情報交換できた。 ●学力や学習意欲の二極化が課題。進路研究や目標設定、学習習慣の確立を徹底していく。 ●ロジコミや探究の指導について、職員がノウハウやスキルを身につけ、生徒に還元していく。 ●解き方を習って理解する勉強法が身に染みついている。目標大学を設定し、過去問題を解き、傾向と対策を受け止めることにより、どういう力が必要かを認識した上で、自分の学習法を見つめることが望まれる。我々教師もそういう姿勢を身につけていかねばならない。 ●確かな学力は豊かな語彙力、文法力、計算力があってこそ培われる。最近の学力低下の原因はそこにあると思う。定期試験前になって限られた範囲を演習する姿が見られるが、毎日の授業や演習を通して幅広く、重量のある学習の定着が大切である。全国模試や英検を基準にするのはどうかちう考えも分かるが、その時の実力判断として、分析と今後の対策を考えてはどうだろうか。クラス編成が固定してきているので、縦の成績の定点観測をするのも一つの方策である。	2.9	・科に応じた対応が十分にできていると思う。細かな部分においては、面談を通して生徒の気持ちや進むべき道を話していくと良いのではないか。 ・課題研究発表が良かったです。聞きたいものがいくつか重なり迷ってしまう場面もあった。 ・（●については）小中学校段階で対策すべき課題であると考えます。次年度より、高鍋町では、AI学習ドリル「キュビナ」を導入し、基本的な知識、技術の定着を図ることとしております。 ・探究の校外活動は普通科の生徒は参加することはできないのでしょうか？興味のあることであれば参加できると進路選択に役立つのでは？と思いました。
	4 自主的自律的自己の確立と文武両道の推進	（1）部活動やボランティア活動の促進とともに生徒の主体性や積極性を育成する。	（1） ①学校行事・部活動・生徒会活動におけるリーダー育成。 ②校内外での活動の拡充と地域貢献。	（1） ①校内外ボランティアの呼びかけを行う。 ②生徒会活動への参加を促し、継続的な支援を行う。 ③学科行事やOSなどでの生徒による主体的な運営を支援する。 ④校内外における探究活動の発表の場を設ける。 ⑤地域に根ざした探究活動を継続的に行う。	3.4	○校外イベントやボランティアに積極的に参加する生徒が多かった。 ○探究活動で扱った内容を書いた作文が新聞に掲載されたり、FWⅡの発表を国交省の方に見に来ていただいたり、生徒の活動を地域に知ってもらう機会をつくれた。 ○部活動でキャプテンを務める生徒も多く、チームの軸として活躍している。 ○生徒会への意欲的な立候補や主体的な活動が見られる。また、探究広報委員会も学科行事運営や企画を中心に活動し、定着してきた。 ○地域の中学校（唐瀬原中・美々津中・高鍋西中など）での生徒発表の場を多く設けることができた。 ○今年度はオープンスクールの形が大きく変わったが、その都度生徒主体に実施できたことは、探究広報委員を中心とした活動が活かされていたと思う。また秋のオープンスクールには卒業生に登壇してもらい、中学生保護者に向けてだけでなく、在校生にとってもよい機会だった。10年経ったからこそ、今後も地元に残っている卒業生を招聘する機会を設けていくことが、一つの地域との連携やアピールになると思う。 ○3年の守部さんが「GlobalLinkOnline2022」（国際大会）で2位を受賞、またその活動成果を国連の弁論大会で発表し受賞するなど、素晴らしい成果を残してくれた。 ●ボランティアや校外での研究活動に取り組む生徒がみられる一方で、自分の言葉で語れる経験に乏しい生徒いるため、今後もサポートが必要だと感じている。	3.6	・自主的な活動は十分にできていると思うので、今後も継続して行い効果を高めてほしい。 ・部活動やボランティア活動への参加、それに勉強も…皆頑張っていると思います。 ・守部さんの入賞は大変すばらしいことだと思います！
キャリア情報クラス	1 確かな学力の向上と進路実現	（1）基礎学力の育成 （2）進路目標の育成に向けた資質の向上、経験の蓄積	（1） ①授業を大切にする学習習慣の確立。 ②中学校までの学習内容の振り返りと定着を図る。 （2） ①学習時間を確保する生活習慣の確立。 ②一般常識的な知識の定着と理解力の向上を図る。	（1） ①教材の準備、プリント等の整理整頓を徹底させる。 ②「授業で理解、授業で覚える」意識を向上させる。 ③定期考査での欠点者0名、評定3未満0名をめざす。 （2） ①自宅学習時間の目安（平日90分・休日180分以上） ②予習と復習の習慣化、小テストの合格や課題の提出を徹底させる。	2.5	**1年**：●学習習慣の定着、基礎学力の向上が年間を通しての課題であった。学業と部活動との両立を目指す生活スタイルの確立が、次年度以降も1年時の最大の教育目標の一つである。 **2年**：○課題の提出や再テストの指導を着実にこなせることができた。概ね、自宅学習の習慣化、教材プリント等の整理などできるようになった。 ●自宅学習時間の伸びがさほど見られないが、部活動一辺倒ではなくなり、時間を上手く調整しながら、学業と部活動のバランスを図ろうという意識や実行力が向上してきた。 **3年**：○宮崎県警合格3名、自衛官合格5名と、昨年を上回る実績があった。 ○朝の対策講座（一般教養講座、総合演習講座、高専連携の公務員講座）が計画的に運用できた。 ○宮崎公立大学に1名合格（一般推薦）。 ●私立大学、専門学校の多くが推薦での合格であり、一般常識や基礎学力の向上に向けては課題が残る。	3.1	・自宅学習の大切さを生徒に理解してもらうような指導を望む。
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	（1）基本的生活習慣の確立 （2）人間力の育成	（1） ①礼節や身だしなみを大切にできる生徒の育成。 （2） ①学校行事、生徒会活動、HR活動に積極的に参加する態度を養う。 ②部活動、対外活動に積極的に参加する態度を養う。	（1） ①師弟同行を基本とし、常時指導を徹底する。 ②服装容儀や言動など、適切な姿勢を維持させる。 （2） ①諸行事・活動において、学校全体を牽引するチャレンジ精神やバイタリティを発揮させる。 ②「文武両道」を実践し、自尊感情や自己肯定感を育ませる。	3	○全学年とも、概ね基本的生活習慣は確立されており、自律的に清潔感のある身だしなみを心掛けている。 ●3年生については、進路決定後にやや遅刻や欠席が増えた。 ○全学年とも、清掃活動に対して、誠実に取り組んでいる生徒が大半であった。部活動生については、朝の清掃活動にも継続に取り組む生徒が多い。 ○教室や廊下の個人BOXの整理整頓も年間を通して概ねできていた。 ○運動部の生徒が使用している大型のスポーツバックも、整然と並べることが常態化した。 ○体育大会において、2名が団長を務めた。文化祭でも全体の進行役を3名の生徒が担当した。 ○3年生においては、部活動のキャプテンや部長を務める生徒が多かった。	3.2	・高鍋高校生の服装は良好だと思う。新制服の指導の仕方等も時代に合った方法を考え進めて行ってほしい。 ・地域のリーダーを育成してほしい。そこを目指すのもアリだと思う。
	4 自主的自律的自己の確立と文武両道の推進	（1）自主性や自立心の向上 （2）公共心や社会性の育成	（1） ①時間や日程の管理ができる生徒の育成。 （2） ①ルールを遵守し、マナーやモラルを大切にする生徒の育成。 ②環境を整え、物を大切にする生徒の育成。 ③地域貢献、社会奉仕を大切にする生徒の育成。	（1） ①チャイムや放送に頼らない行動を実践させる。 ②スケジュールの自己管理を実践させる。 （2） ①日常の清掃活動と個人BOXの整理整頓を徹底させる。 ②諸活動を通して学校や地域に貢献することで、自己存在感を実感させる。	2.5	○1年生に対しては、入学当初、2・3年生に対しては、年度当初に約束事を丁寧に示すことで、生徒の自律した行動は可能であると考える（時間、スケジュールの管理）。 ○年間を通して、清掃や整理整頓に関する、常時指導を継続的に行うことで、効果を上げることができた。 ●対外的なボランティア活動への参加が少ない。自発性、積極性を高める取組が一層望まれる。	2.9	・ボランティア活動への積極的な声掛けが必要だと思う。
	5 教職員の資質向上	（1）キャリア教育の充実	（1） ①適切なライフプランと進路目標を構築・設定させる。 ②2年時のインターンシップ、3年時の課題研究の充実。 ③資格や検定の取得に努める。	（1） ①1年時の「キャリアA」において、自己理解と社会理解を深めさせる。 ②望ましい職業観や勤労観を育成する。 ③書類の作成や面接試験に対応できる基本的な能力を早い段階から育成する。 ④資格や検定の取得の機会を効果的に設定し、支援する。	3	○各学年の特設科目「キャリア」については、前年度までの活動をふまえ、よりバージョンアップして、計画的に実践できた。新年度を迎える前に年間計画の策定、教材などの諸準備を行ったことで効果を上げたと思われる。 （1年：「ライフプランの作成」／「自己理解・社会理解」　2年：「インターンシップ」事前・事後学習　3年：「課題研究」活動） ○全学年とも、CIクラス設置後で初めて情報系の検定の受検を実現できた。 ○本年度より、商業、ビジネス家の科目に関して、非常勤講師ではなく、本校の教諭による授業が実現した。放課後を利用したタイピング練習やパワーポイントのスライド作成など、生徒の自発的な学びにもつながった。	3.1	・一人一人に合った職員の対応は十分にできていると思う。